

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-11-09

遺産相続ニ関スル理由書草稿

(発行年 / Year)

1910

遺產相續ニ関スル理由書草稿

第二章 遺産相續

(理由) 本章ハ既成法典財産取得編第十三節

ニ節ニ相當スト雖モ既成法典ハ單ニ遺言相

續人ノ順位ヲ指定スルニ止マリ別ニ遺産相

續人ノ缺格及ヒ廢除ニ関シ殊ニ遺産相續ノ

効力ニ関シテ何等ノ規定ヲ設ケサルハ其缺

點ト云ハサルベカラサルニ因リ本案ハ新ニ

法典調査會

多數ノ規定ヲ増加シテ之ヲ補充シ且本案ハ

後ニ各本條ニ就テ説明スル如ク遺産相續ニ

付テハ財産ノ分割主義ヲ採用シタルニ因リ

各相續人ノ相續分其他遺産ノ分割等ニ関シ

新ニ多數ノ條項ヲ掲クルニ至レリ故ニ本案

ハ本章ヲ分ケテ三節トシ總則以外ニ遺産相

續人及ヒ遺產相續ノ効力ニ関シテ各一節ヲ
設ケ之ニ依リテ遺產相續ノ規定ヲシテ完全
ナラシメタリ

第一節 總則

(理由) 本節ハ遺產相續開始ノ原因、時期及ヒ
場所ニ関シ並ニ遺產相續回復ノ請求權ニ對

法典調査會

スル特別時効ニ関シテ一般ノ通則ヲ掲グル
モノニシテ既ニ家督相續ニ関シテ其總則ヲ
規定シタル例ニ從フモノトス

第九百九十六條

(理由) 既成法典財産取得編第百十二條ハ
遺產相續ノ意義ヲ示スニ過キスト雖モ本案

ハ聊カ之ニ字句ノ修正ヲ加ヘ之ニ依リテ遺
産相續開始ノ原因及ヒ其時期ヲ明白ナラシ
メタリ

第九百九十七條

(理由) 本條ハ改訂民法ニ其例ナシト雖モ遺
産相續開始ノ地力確定セルニ非サレハ遺產

法典調査會

相續ニ関スル裁判管轄其他公告登記ノ場所
等ヲ定ムルニ付キ其標準ヲ求ムルコト能ハ
ス又遺產相續回復ノ請求權ノ如キモ適當ノ
時期ニ之ヲ消滅セシムルニ非サレハ不確定
ノ法律關係ヲ永ク存續セシムルノ餘公私ノ
利益ヲ害スルノ弊ヲ免レサルニ因リ本條ハ

遺産相續開始ノ地ニ関シテハ第九百七十一
條第二項ノ規定ヲ準用シテ被相續人ノ住所
ヲ以テ其標準トシ又遺産相續回復ノ請求權
ニ付テハ第九百七十條ノ規定ヲ準用シテ此
權利ハ相續人又ハ其法定代理人カ相續權侵
害ノ事實ヲ知りタシ時ヨリ五年間又相續開
始ノ時ヨリ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ
消滅スルモノト爲セリ

法典調査會

第二節 遺産相續人

(理由) 本節ハ遺産相續人ノ資格順位缺格及
ニ廢除ニ関スル規定ヲ總括スルモノニシテ
既ニ家督相續人ニ関シテ採用シタル立法ノ

継承ニ從フモノトス而シテ其規定ノ實質上
ニ於テ既成法典ヲ修正増補シタル所ハ各本
條ニ就テ之ヲ説明スベシ

第九百九十八條

(理由) 本條ハ被相続人ノ直系身屬間ニ於ケ
ル相續ノ順位ヲ規定スルモノニシテ既成法

典財産取得編第百三十三條ノ前後及ヒ第
百十四條ニ修正ヲ加ヘタリ即チ既成法典ハ
被相続人タル家族ト家ヲ自フスル此者ノ卑
屬親ニ限リテ遺産相續ヲ為スコトヲ得ルモ
ノト定メタルハ主トシテ婚姻又ハ縁組ニ因
リテ既ニ他家ニ入りタル者若クハ既ニ獨立

ノ生計ヲ營ム者ノ如キハ概テ皆相當ノ資産
ヲ公與セラシタルモノナレハ再ヒ遺産相續
ノ利益ヲ受ケシムル必要ナク且家族ト家ヲ
目フスル此者ノ卑屬親ニ限リテ遺産相續ヲ
為サシムルコトハ實際上ノ煩雜ヲ避ケ併セ
テ族制ノ主旨ニ適セシムルコトヲ得ト認メ
タルニ因ルモノナルニ然レトモ家族ノ遺
産相續ハ族制ト何等ノ關係ヲ有セサルハ勿
論ニシテ且既ニ他家ニ入り又ハ獨立ノ生計
ヲ營ム卑屬親ハ必スシモ相當ノ資産ヲ公與
セラシタルニ限ラサルモノナレハ遺産相續
ニ關シ其利益ヲ受クベキ卑屬親ノ範圍ヲ限

定シ被相続人ト家ヲ同フスル者ニ限ルハ其
理由ナキノシテナラス實際ノ事情ニ適セザル
モノト曰ハサルヤカラス殊ニ本案ハ後ニ説
明スル如ク遺産相続ニ付テハ財産ノ分割主
義ヲ採用シ且各相続人ノ相続分ヲ定ムルニ
付キ極メテ公平ナル規定ヲ設クルモノナリ

法典調査會

ハ或成法典ノ如ク遺産相続人タルベキ卑屬
親ノ範圍ヲ限定スル必要ナシトス是レ即チ
本案カ被相続人ノ直系卑屬ハ總テ本條ノ規
定ニ從ヒ遺産相続人タルコトヲ得ベキモノ
ト爲シタル所以ナリ

次ニ直系卑屬間ニ於ケル相続ノ順位ニ付テ

ハ既成法典財産取得編第三百十四條ハ家督
相續人ノ順位ニ関スル第百九十五條ノ規
定ヲ遺産相續ニ適用スルモノニシテ親等ノ
異ナリタル者ノ間ニ於テ其近キ者ヲ先ニス
ル點ニ付テハ本條第一號モ亦固ヨリ既成法
典ト同一ノ趣旨ニ從フト雖モ親等ノ同シキ

法典調査會

者ノ間ニ於ケル相續ノ順位ニ付キ既成法典
ノ如ク家督相續ノ順位ニ関スル規定ヲ遺産
相續ニ適用シ之カ為メニ男女長幼嫡庶等ノ
區別ニ因リ或直系卑屬ヲシテ遺産相續ノ利
益ヲ受クルコト能ハサラシムル如キハ只ニ
其理由ナキノミナラス人情ニ及ビ實際ニ適

セザル規定ト曰ハサルベカラス何トナレハ
遺産相續ハ族制ト何等ノ關係ヲ有セザルモ
ノナレハ家督相續ノ如ク其相續人ヲ一人ニ
限定シ且男女長幼婚庶ノ區別ニ從フテ相續
ノ順位ヲ定メシムベキ必要ナク寧ロ總テノ
卑屬親ヲシテ遺産ノ分割ヲ受ケシムルコト
ハ親子ノ情愛ニ適シ法律保護ノ公平ヲ得タ
ルモノト云ハサルベカラサレハナリ故ニ本
案ハ遺産相續ニ付テハ分割主義ヲ採用シテ
遺産ハ總卑屬親中ニ分配セうんベキモノト
シ即チ本條第ニ號ニ於テ親等ノ同シ干者ハ
同順位ニ於テ遺産相續人ト爲ルベキ旨ヲ明

示スルモノニシテ遺産相續ノ利益ヲ受クル
點ニ於テハ敢テ卑屬親ノ男女長幼嫡庶其他
家ニ在ルト否トヲ問ハスト雖モ遺産分割ノ
公平ヲ公ケ一般ノ人情慣習ニ適セシムル為
メ本章第三節第二款ニ於テ特ニ相續公ニ関
スル規定ヲ設ケ各卑屬親ノ相續分ヲ適當ニ
指定スルモノトス

法典調査會

第九百九十九條

(理由) 相續人タルヘキ者カ相續ノ開始前ニ
死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタルトキハ此者
ノ現在ノ直系卑屬カ前者ト同順位ニ於テ相
續人ト為リ得ヘキコトハ既ニ家督相續ニ関

レテ採用シタル立法主義ニシテ既成法典財
産取得編第三百十四條モ亦家督相續ニ関シ
テ右ノ趣旨ヲ明示シタル第二百九十五條第
二項ノ規定ヲ遺產相續ニ適用スベキモノト
爲セリ故ニ本條ハ其趣旨ニ於テ敢テ既成法
典ト異ナル所ナク只同財産取得編第二百九

法典調査會

十五條第ニ項ノ字句ヲ修正シテ遺產相續ニ
關スル獨立ノ一條文ト爲シタルニ過キス

第千條

(理由) 本條ハ遺產相續ニ付キ被相續人ノ直
系卑屬ナキ場合ニ於ケル相續人ノ順位ヲ指
定スルモノニシテ既成法典財産取得編第三

百十三條後段ノ規定ニ修正ヲ加ヘタリ即チ
既成法典力被相続人ノ卑屬親ヲ場合ニ於
テ配偶者ヲシテ第一順位ニ於テ相続セシム
ルコトハ其當ヲ得タリト雖モ配偶者ヲ場
合ニ於テ直系ニ戸主ヲシテ相続セシム被相
承人ノ直系尊屬ノ相続権ヲ認メザルハ頗ル
人情ニ及ビ立法上ノ標準ニ背キ聊カ其當ヲ
失フモノト云ハザルベカラズ何リナシハ遺
産相続ノ利益ヲ受ルニキ者ノ範圍ヲ定ムル
ニ著リテハ宜シク被相続人ト相続人トルベ
キ者トノ關係ノ親疎ヲ斟酌セザルベカラザ
ルモノニシテ被相続人ノ直系尊屬ニシテ相

縁族ヲ有セリルコトハ兩系ノ關係上當サ
ニ然ルベキ所ニシテ且被相続人ノ意思ニ適
スルモノト云ハサルベカラザルノミナラズ
被相続人ノ配偶者ナキ場合ニ於テ直系ニ戸
主ヲシテ相続セシムルヨリハ寧ロ直系尊屬
ヲシテ之ニ先タテテ相続セシムルノ至當ニ
シテ且實際ノ事情ニ適スルヲ疑ハサシムナ
リ故ニ本條ハ前二條ノ規定ニ依リテ相続人
タルハキ者ナヤトキハ配偶者直系尊屬及ヒ
戸主カ此順位ニ從フテ遺產相続ヲ為スコト
ヲ得トシ之ニ依リテ直系尊屬ノ利益ヲ適當
ニ保護セリ

本條才二項ハ直系尊屬間ニ於ケル遺産相続ノ順位ヲ指定スルモノニシテ才一項ニ於テ直系尊屬ノ相続権ヲ認メタル者然ノ結果トルベシ

芽子一條

理由 本條ハ遺産相続人ノ缺格ニ関スル規

法典調査會

定ニシテ家督相続人ノ缺格ニ関スル第九百七十八條ノ例ニ從フモノトス蓋シ遺産相続ノ場合ニ於テハ第九百七十八條才一條ニ掲クル如キ家督相続ノ特質ニ基テ所ノ缺格ノ原因ヲ存セサルコトニ更ニ辨明ヲ要セザル所ナリト虽モ徳義上ノ理由ニ基キ或ハ被相

總人ノ意思ヲ斟酌シ其他法律保護ノ適正ヲ
保シントスル趣旨ニ基キ遺產相續ノ利益ヲ
度ケシムヘキ者ノ資格ヲ觀察スルトキハ第
九百七十八條第一號以下ニ列挙スル所ノ家
督相續人缺格ノ原因ト同一ノ事情ノ存スル
場合ニ於テハ本條遺產相續ノ利益ヲ受ルベ

法典調査會

キ者ト雖モ相續人タルコトヲ得サウシムル
ヲ以テ至當トス之し本條ハ既成法典ニ其例
ナシト雖モ從來ノ慣例其他多數ノ立法例ニ
依リ時ニ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ニシテ
家督相續人ノ缺格ニ関スル才九百七十八條
第一號以下ノ規定ハ總テ之ヲ遺產相續人ノ

缺格に準用スルコトヲ得ベシトモ遺産相
續ノ場合ニ於テハ同順位ニ於テ相續人タル
ベキ者ヲ数人存スルコト多ク從テ此等ノ者
ノ間ニ於テ致死ニ関スル犯罪ヲ為スコトヲ
ルヲ以テ特ニ本條中一節ノ規定ヲ附加セリ
第百三條

法典調査會

(理由) 本條乃至百五條ハ遺産相續人ノ廢除
又ニ其取消ニ関スル規定ニシテ既成法典ニ
其例ナシトモ改ニ家督相續人ノ廢除及ニ
其取消ヲ認メル以上ハ遺産相續人ニ存テ之
ヲ禁スル理由ナキノモナラズ徳義上ノ理由
並ニ被相續人ノ意思ヲ斟酌スルトキハ遺産

相続人ノ廢除及ヒ其取消ニ再因ヨリ之ヲ認
メサルハカウヤクニ因リ本條ハ特ニ本條以
下數條ノ規定ヲ設ケ以テ實際ノ事情ニ適セ
シメヨリ然レトモ元來自己ノ財産ハ遺留分
ノ規定ニ抵触セサル限ハ何人トモ之ヲ隨意ニ
之ヲ處分スルコトヲ得ヘキモノ、之ヲ法律
上必ス之ヲ之ヲ推定遺産相続人ニ與ヘシム
ヘキ理由ナキモノナレバ被相続人カ其推定
遺産相続人ヲ廢除シテ他人ニ自己ノ財産ヲ
相続セシムルコトハ因リ被相続人ノ自由
ナルハコト虽モ推定遺産相続人カ被相続人
ヨリ遺留分ヲ受ケベキ者ナルトキハ被相続

人の隨意、斯ノ如キ相続人ヲ廢除シテ濫リ
ニ此者ヲニテ遺留分ノ利益ヲ失ハレムルコ
トヲ得ス若シ否カシハ法律ニ特ニ遺留分
ノ制度ヲ設ケテ遺留分權利者ノ利益ヲ保護
スハ趣旨ニ及ムルニ至ラニ故ニ推定遺留分
續人ノ廢除ニ関シテ特ニ規定ヲ要スル場合

法典調査會

ハ遺留分ヲ有スル推定遺產相續人ノ廢除ニ
関スルモノニシテ假令此者カ法律上遺留分
ノ利益ヲ受クベキ者タリトモ被相續人ニ對
シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加
ヘタルニ於テハ被相續人ヲニテ斯ノ如キ相
續人ヲ廢除スルニトヲ得ヤレムルニ存キ立

茲上先方ノ理由アリト云フべし是レ即チ本
條ノ家督相続人廢除ノ場合ニ於ケル如ク被
相続人ニ對スル虚待又ハ重大ナル侮辱ヲ理
由トシテ遺留分ヲ有スル推定遺產相続人ヲ
廢除スルコトヲ得セシムル所以トリト云モ
之ニ依リテ相続人ヲシテ遺留分ノ利益ヲモ
失ハシムルモノナレハ右ノ廢除ハ裁判所ニ
請求シテ之ヲ行ハシムルモノト為セリ
其他推定遺產相続人ノ廢除ハ必スシモ被相
續人オ直接ニ之ヲ請求スルコトヲ要スルニ
限ラズシテ遺言ヲ以テ廢除ノ意思ヲ表示ス
ルコトヲ得ヘキハ勿論タルニ因リ本條第二

項ハ右ノ場合ニ於テハ遺言ヲ以テ家督相続
人廢除ノ意思ヲ表示シタル場合ニ因スル第
九百七十九條ノ規定ヲ準用シ遺言執行者ヲ
シテ遺言ノ効力發生後遲滯ナク廢除ノ請求
ヲ為サシムベキ旨ヲ明カニセリ

第一千三條

法典調査會

(理由) 本條ハ推定遺產相続人ノ廢除ニ關ス
ル裁判ノ推定前ニ被相続人ノ死亡シタル場
合ニ於テ其遺產ノ管理ニ関スル特別規定ニ
シテ家督相続人廢除ノ場合ニ對スル第九百
八十一條ノ規定ト同一ノ趣旨ニ基ツクモノ
ナレハ再ヒ之ヲ説明セム只本條ノ場合ニ於

ヲ才九百八十一條ノ規定ヲ準用スルコトヲ
得ザルハ遺產相續ノ場合ニ在リテハ戶主權
ノ行使ニ存セ何等ノ關係ヲ有セザレバ十
分千四條

(理由) 推定遺產相續人廢除ノ理由ハ被相續
人カ虐待又ハ重大十人侮辱ヲ受ケタルコト

法典調査會

ニ存シ主トシテ被相續人ノ意思ヲ斟酌シテ
之ヲ定メタルモノナレハ此方カ右ノ要行ヲ
窮巡スルニ於テハ強ヒテ推定遺產相續人ヲ
シテ相續權ヲ失ハレバヤ必要ナシ且レ即
チ本條ノ家督相續人廢除ノ取消ニ関スル才
九百八十條才二項ノ例ニ依リ被相續人ヲシ

ヲ何時ニテモ推定遺産相続人ノ廢除ノ取消
ヲ請求スルコトヲ得セシメタル所以ナリ

第千五條

(理由) 本條ハ遺言ヲ以テ推定遺産相続人ノ
廢除ヲ取消シタル場合ニ於テ人遺言執行者
ノ義務ヲ規定スルモノニシテ家督相続人廢

法典調査會

除ノ取消ニ関スル第千九百八十四條ト同一ノ
趣旨ニ基ウリモノナシ人再之ヲ發明ス

第千六條

(理由) 本條ハ遺產相続ニ関スル胎兒ノ利益
ヲ保護スル特別規定ニシテ其趣旨ニ於テハ
既成胎兒人律編第千二條ト敵テ異ナルコトナ

之ハ本條ハ既成法典同條ノ如ク胎兒ノ利益
ヲ保護スルニ付キ概括的ノ規定ヲ掲ケスレ
テ各ノ場合ニ就キ其趣旨ヲ明示スル主義ヲ
採用シタルニ因リ遺產相続ニ付テモ特ニ本
條ノ規定ヲ設ケ既ニ家督相続人ニ屬シテ胎
兒ノ相続權ヲ認めタルカ九百七十二條ノ規

法典調査會

定テ遺產相続人ニ專用スベキ旨ヲ明カニセ

第三節 遺產相続ノ効力

(理由) 既成法典ハ遺產相続ノ効力ニ關シテ
列ニ何等ノ規定ヲ設ケズ蓋シ既成法典ハ遺
産相続ニ付テモ家督相続ノ如ク一人相続ノ

主義ニ從ヒタルニ因リ殊更ニ遺産相続ノ效力ニ関シテ詳細ナル規定ヲ設クルニ必要ナリト雖モ本条ノ如ク遺産相続ニ付キ共同相続ノ主義ヲ採用シタル以上ハ先相續人ノ相續分其他遺産ノ分割等ニ関シ適当ノ規定ヲ設クルコトヲ要スルハ當然ノ結果ニシテ且假令共同相続ノ効力ノ発生其他範圍等ニ關シテハ一般ノ通則ヲ定ムルコトヲ要ス故ニ本条ハ特ニ本條ノ表題ヲ掲ケ遺産相続ノ一般ノ效力ノ外相續分及ビ遺産ノ分割ニ付キ者一款ヲ設ケ遺産相続ノ効力ニ關スルニ必要ノ規定ヲ掲載セリ

第一款 總則

(理由) 本款ハ遺產相續ニ因リテ相續人ハ如何ナル範圍ニ於テ被相續人ノ權利義務ヲ承継スルカ又數人ノ相續人アルトキハ其間ノ財産關係及ヒ各自承継スル權利義務ノ分量ハ如何ニシテ定ムベキカニ付キ一般ノ通則ヲ掲グルルニモノコシテ即チ遺產相續ノ一般ノ效力ヲ規定セリ

法典調査會

第七條

(理由) 本條ハ遺產相續ノ範圍及ヒ其效力發生ノ時期ヲ明示スルモノニシテ既ニ家督相續ノ効力ニ關シテ規定シヨシ牙九犯八十九

條及第九百九十五條ト同一ノ趣旨ニ基キ
モリトス。且遺產相續ハ財産権以外ニ其動力
ヲ及ホフヤキモノニ非サレハ本條ハ特ニ相
續人カ被相續人ノ財産ニ屬セシ一切ノ權利
義務ヲ承継スベキ旨ヲ明カナラシメタムニ
過キス

第一千八百條

(理由) 遺產相續人カ一人ナントキハ此若ト
相續財産ノ所有權トノ關係ニ付特別ニ規定
ヲ要セスト。虽モ遺產相續人カ數人ナントキ
ハ遺產カ分割セラルルニ至ルコトテハ此等相
續人カ相續財産ニ對シ相互ニ如何ナル關係

ク保ツモノナレバニ付キ豫メ規定ヲ設ケルハ
コトヲ要ス何トナシハ相續財産ノ所有權ハ
相續ノ開始ニ因リテ直チニ相續人ニ移轉ス
ベシト雖モ數人ノ相續人アルトキハ各相續
人ハ相續財産ノ全部ノ所有權ヲ取得スルコ
トヲ得サルニ因リ此場合ニ於ケル相續人ト
相續財産トノ關係ニ付キ理論上疑ヲ生セシ
ムルノミナラズ相續財産ノ分割セラルルニ
至ルマデハ之ニ對スル各相續人ノ使用、處分
ノ權限等ニ關シ種々ノ疑ヲ生セシムルハナ
リ今之ヲ諸國ノ立法例ニ徴スルニ遺產相續
ニ付キ分割主義ヲ採用スル以上ハ遺產相

續人ヲ數人アル場合ニ於テ相續財産ヲ以テ
一旦總相續人ノ共有ニ屬セシムルコトハ強
シト一徹ニシテ且相續財産ノ分割セラルル
コトハ之ニ共有ノ規定ヲ適用ヤシムルヲ以
テ最モ實際上ノ必要便宜ニ適スルコトヲ得
ルモノトス故ニ本章ニ亦相續財産ハ一旦數
人ノ遺産相續人ノ共有^者ニ屬スルモノトシ之ニ
依リテ理論上並ニ實際上ノ疑議ヲ生ズルコ
ト勿カラシメタリ

第千九條

(理由) 本條ハ數人ノ遺産相續人アル場合ニ
於テ各相續人カ被相續人ノ權利義務ヲ承継

スル割合及ヒ其効果ヲ規定セリ蓋シ共同相
續ノ場合ニ於テ各相續人ノ承継スル權利義
務ノ割合ハ各自ノ相續分ニ依テ其標準ト爲
スヤキハ當然ナリトモ、共同相續人ハ被相
續人ヨリ承継シタル債務ニ付キ總テ連帶ノ
責任ヲ負フベキカ將テ分擔シテ其責任久

法典調査會

ルヲ以テ足レリト爲スベキカニ付キ諸國ノ
立法例ハ一ニ歸セ入而シテ二三ノ立法例ニ
ニ依シハ分擔主義ヲ本例トシテ別ニ各相續
人ヲ以テ債務ノ全部ニ付キ担保ノ責任任ヤ
レムトモ又多數ノ立法例ハ概テ連帶主義ヲ
採用セムモノノ如ク蓋シ此等ノ立法主義ハ

後権者ノ利益ヲ保護セントスル級旨ニ基ク
モノニシテ固ヨリ相當ノ理由ヲ有スト虽モ
之カ爲メニ世固相續人ヲシテ往々意外ノ損
害ヲ被ムラシムルニ至ルハ當然ノ結果ニシ
テ法律保護ノ公平ヲ失スルモノト云ハサレ
ヤカラス故ニ本案ハ當事者ノ意思ニ基ク

法典調査會

非サレハ法律上濫リニ連帶ノ責任ヲ推定セ
ザルニ法律主義ニ從ヒ改ニ世有其他組合等ノ
法律關係ニ付テ敢テ連帶ノ責任ヲ生セシメ
サリレニ固リ本條ニ於テ之亦斷然自擔主義
ヲ採用シ各共同相續人ハ其相續分ニ應ジテ
被相續人ノ權利義務ヲ承継スルニ止マリ其

間ニ連帶ノ關係ヲ生セサシフ助カテラシメ
3)

第二款

(理由) 遺産相続ニ付テ既ニ分割主義ヲ採用
シタル以上ハ各共同相続人ノ如何ナル割合
ヲ以テ分割ニ加ハルコトヲ得ベキカ或ハ共

法典調査會

同相続人中既ニ被相続人ヲ遺贈又ハ贈與
ヲ受ケタル者下シトキハ遺産分割ノ公平ヲ
保ツ爲メ如何ナル方法ニ依ルベキカノ如キ
事項ニ付テハ法律上豫メ適當ノ準則ヲ指定
スルコトヲ要ス是レ即チ本章ハ各共同相続
人ノ相続分ニ関シ特ニ本款ノ規定ヲ設ケル

所又ナリ

茅千十條

(理由) 法律上ニ於テ各共同相續人ノ相統分
ヲ指定スルニ當リテハ主トシテ被相續人ト
相續人トノ情愛ヲ斟酌シ且義務ヲ公平ヲ失
ハカランコトヲ要ス而シテ同順位ノ相續人

法典調査會

教人アハ場合ニ於テハ各相續人ニ對スル被
相續人ノ情愛ハ散テ差显ナシト認ムベキハ
至當コレヲ且公平主義ハ分割上最モ公平ノ
標準タルコトハ別ニ言フヲ要セサル所トス
故ニ本條ハ諸國普通ノ立法令ニ從テ同順位
ノ共同相續人同ニ被ケル各自ノ相續分ハ相

均ニキモノト爲スト虽ニ直系卑屬教人アル
場ニ於テ庶子及ト私生子ノ相續分モ亦嫡
生子ノ相續分ト同一ト爲スニ於テハ正當ノ
婚姻ニ因リテ生マシタルニ非サル者ノ利益
ヲ保護スルニ失レ一般ノ人情ニ適セサルノ
ミナラス庶子及ト私生子ノ利益ヲ受クル點
ニ於テ嫡出子ニ及ハサレトハ古來慣例上
普通ノ狀態タルニ因リ本條ハ特ニ祖妻ノ規
定ヲ設ケ嫡出子ノ外庶子又ハ私生子アル場
合ニ於テハ庶子及ト私生子ノ相續分ハ嫡出
子ノ相續分ノ二分ノ一ニ止マルモノト爲セ
リ

第千十一條

(理由) 第九百九十九條ハ相續ノ開始前ニ相
續人ノ一人又ハ數人カ死亡シ若クハ其相續
推ラ生トスル場合ニ於テ此等ノ直系身屬カ
遺產相續人ト爲リ得ヘキコト及ヒ其相續ノ
順位ヲ指定スルモノニシテ本條ハ即チ此直

法典調査會

系身屬カ受クベキ相屬カウ定ムルモノトシ
而シテ若シ右ノ直系身屬カ一人ナルトキハ
此者カ直チニ其直系尊屬ノ受クベカリシ相
續分ヲ承継スベキハ勿論ニシテ系ニ直系身
屬カ數人アルトキハ此等ノ者カ合同シテ其
直系尊屬ノ受クベカリシ相續分ヲ承継スベ

ギハ當然ノ事理トシテ故ニ本條ノ第九百
九十九條ノ規定ニ依リテ相續人トシテ直系卑
屬ノ相續分ハ常ニ直系尊屬ノ度リトナリ
コレノニ同シキ旨ヲ明示シ且直系卑屬カ數
人アル場合ニ於テハ其間ニ於ケル者相續分
ハ如何ニシテ定ムベキカニ付キ疑ヲ生セシ

法典調査會

ムハコトナシトセサルニ因リ本條ハ特ニ但
書ノ規定ヲ設ケ右ノ場合ニ於テハ第九十條
ノ規定ニ從ヒ公平ニ且人情及ヒ慣習ニ適シ
テ直系卑屬ノ相續分ヲ分クニムルモノト

為セリ

第九十條

(理由) 抑々法律カ豫メ相續分ヲ指定スルコ
トハ之ニ依リテ被相續人ノ財產處分ノ自由
ヲ拘束シ又其各相續人ノ對スル被相續人ノ
愛情ノ關係ヲ妨ケントスルモノニ非ス寧ニ
此者ノ意思ヲ重シシ一般ノ人情ヲ斟酌シテ
相續分ニ関スル準則ヲ設ケタルニ過キサハ

法典調査會

モノナレハ被相續人カ自ラウ共同相續人ノ
相續分ヲ定ムルコトハ法律上敢テ之ヲ禁ス
ハ理由ナリ又被相續人カ既ニ自ラ右ノ指定
ヲ為スコトヲ得ルニ於テハ第三者ニ委託シ
テ此指定ヲ為サレムルニ付ラズ別ニ其自由
ヲ拘束スル理由ナレトス故ニ本條第一項ハ

多數ノ立法例ニ倣ヒ被相続人ハ相続分ニ関
スル前ニ條ノ準則アルニ拘ハラフス隨意ニ世
因相続人ノ相続分ヲ定メ又ハ之ヲ定ハルコ
トヲ第ニ者ニ委託シ得ベキ旨ヲ明示ストモ
又斯ノ如キ隨意處分ヲ以テ被相続人ノ生前
處分ニ專スルトキハ種々ノ弊害ヲ生ゼシム

法典調査會

ハ虚アルニ因リ承業ハ右ノ處分ハ遺言ニ依
リテ之ヲ爲スヘキモノトシ且被相続人方自
ラ相続分ヲ指定セサル場合ニ於テ其相続人
ヲシテ適宜ニ之ヲ定メシムルトキハ徒ニ紛
争ヲ生ゼ或ハ分割ノ名平ヲ失フニ至ルヲ以
テ被相続人カ相続分ノ指定ヲ他人ニ委託ス

ルニハ必ス第三者ニ之ヲ為スベキ旨ヲ明カ
ニセリ其他被相続人又ハ第三者カ本條第一
項ノ通則ニ依リ適宜ニ共同相続人ノ相續分
ヲ指定スルコトヲ得ベキモ之カ為メ公私ノ
利益ヲ保護スル為メ特ニ制定セラレタル遺
留分ニ関スル規定ニ違反シ濫リシ之ヲ減殺

法典調査會

セシムル如キハ固ヨリ許スベカラザル所ナ
ルニ固リ本條第一項ハ特ニ但書ノ規定ヲ設
ケテ其旨ヲ明示セリ

被相続人カ本條第一項ノ規定ニ因リ共同相
續人中ノ一人莫リハ教人ノ相續分ノミヲ定
メ又ハ第三者ヲ以テ之ヲ定メシムルニ止マ

ル場合ニ於テハ他ノ共同相續人ノ相續分ハ
如何ニ之ヲ定ムベキカニ付キ疑フ生ゼシキ
ルニ足ル即チ斯ノ如キ一部ノ指定ハ無効ニ
歸スベキカ或ハ他ノ共同相續人ハ既ニ指定
セラシタル相續分ノ平均ニ依ルベキカ若ク
ハ平等ノ相續分ヲ度リベキカハ判然タルガ
ハカ如ク然レトモ右ノ場合ニ於テハ一方ニ
於テ既ニ被相續人ノ表示シタル意思ヲ無効
ニ歸セシムベキ理由ナク又他ノ一方ニ於テ
ハ被相續人又ハ第三者ニ依リテ相續分ヲ指
定セウレザリシ共同相續人ニ付キ法定ノ相
續分ニ同之人規定ヲ適用スベキハ最モ其處

ヲ得多クモノト認ムルニ因リ本條ハ本條第
ニ遺ノ朋支ヲ設ケ左ノ世同相続人ノ相続分
ハ第十條及ヒ第十條ノ規定ニ依リテ
之ヲ定ムヘキモノト為セリ

第十條

(理由) 本條ハ世同相続人カ度クヘキ相続

法典調査會

分ノ務メテ公平ナラニコトヲ期シ且之ニ實
際上ノ便宜ト被相続人ノ意思トヲ斟酌シテ
制定シタル規定ニシテ從來多數ノ立法例ハ
之ヲ遺產ノ分割ニ関スル規定中ニ於テ又ハ
其後ニ掲グルルカ如シト虽モ本條ハ寧ロ相続
分ノ定方ニ関スルモノナシハ本條ハ之ヲ相

縁分ニ関スル規定中ニ編入セリ

抑モ被相続人カ共同相続人中ノ或者ニ遺贈

ヲ為シ或ハ生計ノ資本トシテ特ニ財産ヲ與

フルコトハ常ニ見ル所ニシテ殊ニ共同相続

人中ノ或者ヲシテ婚姻又ハ養子縁組ヲ為カ

シメ或ハ分家セシメ若クハ廢絶家ヲ再興セ

法典調査會

シムルニ當リ之ニ相當ノ資財ヲ與フルコト

ハ普通ニ行ハルル所トス而シテ斯ノ如ク改

ニ被相続人ヨリ遺贈又ハ贈與ヲ受ケタシ相

續人ヲシテ更ニ遺産ノ分割ニ付テ他ノ共同

相続人ト同等ノ法定相続分ヲ受ケルニトテ

得セシムルニ於テハ分割ノ公平ヲ失ヒ且

被相続人ノ意思ニ適セザルコトヲカレバシ
是レ即チ遺産分割ノ場合ニ於テ豫贈物ノ處
置ニ存キ種々ノ立法主義ノ存スル所以ニシ
テ或ニ法例ニ依レハ偏ニ分割ノ公平ヲ保タ
シカ爲メニ受遺者又ハ受贈者シテ盡ク豫
贈物ヲ返還セシメテ遺産ヲ合併シテ更ニ
其共同相続人ノ相続文ヲ定ケベキモノトシ
他ノ立法例ニ依シハ被相続人ノ意思ノ存ス
ル場合ニ限リテ豫贈物ヲ返還セシムベキモ
ノト爲ルニ其間ニ於テ右ノ意思ハ必ズ明示
タルコトヲ要スト爲スモノアリ或ハ黙示ノ
意思ヲ以テ推測スベシト爲スモノアリカ如シ

布ニテ至ニ他ノ立法例ニ依シハ豫断物ハ教
テニリ返還スルコト及ハスト為テ今此等ノ
立法主義ノ得失ヲ講ホスルニ就對的返還主
義ハ理論上公平ナリト云モ實際上ニ於テハ
永ク財産上ノ法律關係ヲ不確定ノ狀態ニ存
セシムルノミナラズ親族間ニ於テ往々紛争
ヲ生セシムル弊ヲ免レヌ又被相続人ノ意思
ヲ重スル立法主義ハ頗ル妥當ナリト云モ被
相続人カ相続分ナシトナラズ明手ニテ豫断ヲ
為スコト極メテ少カルベリ又其明手ノ意思
ヲモ推測スルキモノトセバ往々實際ノ事情
ニ適セザル結果ヲ生ズルノミナラズ孰レノ

場を以て於て之を豫贈物と爲さん法律関係の永
く不確定ノ状態ニ存せしめん祭ヲ免レザル
べし然レドモ豫贈物ハ全ク之ヲ返還スルニ
及ハズト爲ス立法主義モ亦或相續人ノ利益
ノ保護ニ偏シ遺産ノ分割上公平ヲ缺クモノ
タハコト重ク疑ナレ此ニ於て本條ハ條理ト
實際トシテ斟酌シテ本條ノ規定ヲ殺ケ先ク其
初一項ニ於て豫贈物人ニ之ヲ返還スルニ及ハ
スト虽モ之ヲ受ケタル名並同相續人ノ相續
分ハ亦十條乃至亦十條ノ規定ニ依り
法律上又ハ任意上指定セウシタル相續分ヨ
リ遺贈又ハ贈與ノ價額ヲ控除シテ之ヲ定ム

ベキモノトシテ依リニ現物返還ノ不便シ
避クハト同時ニ分割上ノ公平ヲ保タシメタ
リ然レトモ本項ノ通則ハ固ヨリ余念的規定
ニ非サレハ被相続人カ之ニ反對ノ意思ヲ表
示スルコトヲ妨クベキモノニ非ズ之レ本項
但書ノ規定ニ依リテ此類旨ヲ明カニスル所
以ニシテ此場合ニ於テハ共同相続人中ノ或
者カ既に遺贈又ハ贈與ヲ受ケタシモ其價額
可此者ノ受ケベキ相続分ヨリ控除スルコト
ナシトス

本條第一項ノ場合ニ於テ遺贈又ハ贈與ノ價
額カ受遺者又ハ受贈者ノ受ケベキ相続分ノ

價額ヲ超エハコトハ實際上往々生ルベキ事
實ニシテ此場合ニ於テ其超過額ヲ返還セシ
ムルヲ以テ最モ公平ヲ得ルモノトス然レ
トモ實際上ニ於テハ之カ爲メニ受遺者又ハ
受贈者ニ意外ノ損害ヲ被ルラレムノミナ
ラズ容易ニ紛争ヲ生じ得ニ煩雜ヲ加フル虞
アルニ因リ本条ハ實際上ノ便宜ヲ斟酌シテ
特ニ本條才ニ項ノ規定ヲ設ケ右ノ場合ニ於
テハ受遺者又ハ受贈者ハ返還額ヲ返還スル
ニ及ハスト虽モ自己ノ受ケベキ相続分ハ全
ク之ヲ受ルルコトヲ得ストレニ依リテ法
律関係ヲ簡易ニ爲看セシムルコトヲ務メタ
リ

茅子十四條

(理由) 遺産ノ分割後ニ於テ各世同相続人カ
其讓受ケル財産ク他ニ譲渡スエトハ固ヨ
リ各人ノ自由ニシテ假令遺産ノ分割前ト虽
モ各世同相続人カ自己ノ受ケルベキ相続分ヲ
他ニ譲渡スエトハ理論上敵ヲ之ヲ妨ケルベキ

法典調査會

理由ナシ然レドモ分割前ニ於ケル相続分ノ
譲渡ニ因リテ各世同相続人中ニ加
ハルトキハ相続人間ノ和尅ヲ妨ケ得ルノ不
便ヲ生セシムル慮アリニ因リニ三ノ立法例
ニ依シハ世同相続ノ場合ニ於ケル各世同者ノ
持分ハ普通ノ共有ノ場合ト異ニシテ之ヲ茅

三者ニ譲渡スコトヲ得ストシ或ハ斯ノ如ク
亦三者ニ譲渡スコトヲ禁スルニ至ラザルモ
時ニ其手續ヲ定メ且他ノ共同相続人ノ先買
権認メ之ニ依リテ第三者ニ先ラケ此者ニ讓
渡サレントスル相續分ヲ買取ルコトヲ得也
シハ人カ如ク然レトモ相續分ヲ第三者ニ讓

法典調査會

渡スコトヲ禁スル立法主義ハ偏ニ親族ノ私
利ヲ計ラントシテ財産ノ融通ヲ妨ケ實際ノ
不便ヲ顧ミサルモノト云ハサルベカラズ又
相續分ヲ第三者ニ讓渡サントスル者以外ノ
共同相続人ノ先買権ヲ認ムル立法主義ハ並
價ニテ相續分ヲ讓渡サントスル場合ヲ包含

セザルモノナレハ聊オ推衡ヲ失スル蟻ヲ免
レズ故ニ本業ハ右共同相続人ハ分割前ト虽
モ其相続分ヲ有儀又ハ無儀ニテ芽ニ有コ
儀スコトヲ妨ケスト雖モ一方ニ於テハ芽ニ
者ヲモテ濫リニ共同相続人ノ間ニ加ハルコ
ト勿カラシメントコトヲ務メ他ノ一方ニ於テ
ハ被相続人ノ財産殊ニ祖先傳來ノ財産ノ如
キハ筋メテ相続人間ニ之ヲ保有スルコトヲ
得セシメントスル趣旨ニ基キ特ニ本條ノ規
定ヲ設ケ分割前ニ於ケン相続分ノ譲渡ニ付
テハ他ノ世同相続人ハ其價額及ヒ費用ヲ償
還セテ再ヒ右ノ相続分ヲ譲渡スルコトヲ得

ヘキ旨ヲ認メヨリ

本條第一項ノ規定ニ依リテ共同相續人ノ有
スル權利カ存續スル間ハ相續分ヲ讓渡ケル
ル第三者ノ法律關係ハ不確定ノ狀態ニ在リ
此者ニ取リテ不利益ナルハ勿論斯ノ如キ法
律關係ノ存續スルコトハ決メテ望ムベキコ

法典調査會

トニ那ザルヲ以テ適當ノ時期ニ於テ之ヲ確
定セシムルコトヲ要ス而シテ共同相續人ノ
一人カ其相續分ヲ讓渡シタル事實ハ他ノ共
同相續人ニ於テ容易ニ之ヲ知ル得ベキモノ
ナシハ此等ノ者カ第三者ヨリ受テ相續分ヲ
讓渡スルコト欲セハ速カニ之ヲ実行スベキヲ

以テ至著トス是レ即ケ本條第一項ノ規定ヲ
設ケル所以ニシテ第一項ニ掲ケタル共同相
續人ノ權利ハ一ヶ月内ニシヨ行便スルコト
ヲ要ス且此期間ハ相續人ノ譲渡アリタル時
ヨリ之ヲ起算スルモノトス

第三款 遺産ノ分割

法典調査會

(理由) 遺産ノ分割ハ共同相續ニ於ケル最終
ノ處分ニシテ其方法、効力等ニ關シテハ豫メ
法律ノ規定ヲ設ケルコトヲ要ス本款ハ即ケ
此等必要ノ規定ヲ撰採スルモノニシテ其詳
細ハ各本條ニ就テ之ヲ説明ス

(理由) 被相続人ノ遺言ヲ以テ右共同相続人
ノ相續分ヲ定メ又ハ之ヲ定ムルコトヲ第三
者ニ委託スルコトヲ得ベキコトハ既に第千
十二條ニ於テ之ヲ認メタリ而シテ遺產分割
ノ方法ノ如キモ亦敢テ被相続人ノ任意ノ指
定ヲ妨グベキ理由ナキハ勿論タルノミナラ

法典調査會

ス被相続人ノ共同相続人ノ性質目的其他種々
ノ事情ヲ斟酌シテ或ハ不動産ヲ與ヘ或
者ニハ金錢ヲ與ヘントスル如キハ最モ實際
ノ事情ニ適スルモノナシトシテ其指定シ
自由ナラズルコトヲ要ス之レ本條ニ於テ
被相続人ノ自由分割ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ

定ムルコトヲ第三者ニ委託スルコトヲ得ベ
キ旨ヲ認ムル所以ナリト雖モ濫リニ被相続
人ノ意思ヲ口實トシテ分割ノ方法ヲ定メ後
ニ紛争ヲ生セシメシコトヲ慮ハク本條モ亦
第一千二百條ノ如ク被相続人ヲ本條ノ處分ヲ
定ムルニハ必ズ遺言ヲ以テスヘキモノト爲

法典調査會

セリ

第一千二百條

(理由) 本條ハ遺産分割ノ禁止ニ關スル規定
ニシテ既ニ本條カ旁ニ百五十二條ニ於テ共
有ニ關シテ採用シタル立法主義ニ從フモノ
トス蓋シ共同相続人ヲ旁ニ百五十二條ノ規

定ニ從ヒ相互ノ契約ヲ以テ五年ヲ越エザル
期間内遺産ノ分割ヲ禁スルコトヲ得ルハ更
ニ疑ナシト雖モ被相続人ノ遺言ヲ以テ分割
ヲ禁ズルコトヲ得んヤ否ヤニ付テハ諸國ノ
立法例ハ固ヨリ一ニ歸ヤス例ハ佛國民法
ノ如キハ各共同相続人ノ遺産ノ不可分ヲ強
要セウルルコトナキ旨ヲ明カニスルニ及ビ
普國々法、臺灣民法ノ如キハ二十年又ハ三十
年ノ長期間内ニ於テ分割ヲ禁ズルコトヲ得
ルニキ主義ヲ採用セルカ如ク而シテ實際上ノ
必要及ビ便宜ヲ審ズルニ被相続人が遺産ノ
分割ヲ禁ズルニ付キ止當ノ理由ノ存スル場

合決して少カラサルニ因り被相續人ヲシテ
分割ヲ禁ムルコト能ハサルニハ不爲ノ
制限多クベシト云々禁止ノ期間ヲ過度ニ長
カラシムルコトハ又種々ノ弊害不俚ヲ生シ
サレバ之故ニ本業ノ改ニ才ニ百五十二條ニ
於テ其有者ハ五年ノ期間ヲ超エサル限ハ分
割禁止ノ契約ヲ爲スコトヲ得ベキ旨ヲ認メ
タル例ニ倣ヒ本條ニ於テ亦被相續人ハ遺
言ヲ以テ五年ノ期間ヲ超エサル限ハ遺産ノ
分割ヲ禁ムルコトヲ得トシ之ニ依リテ實際
ノ必要及ビ徑管ニ適セシメテ而シテ左ノ期
間ハ相續開始ノ時ヨリ起算スベキモノナリ

コトハ別ニ説明ヲ要セザル所トス

第千十七條

(理由)

本條ハ遺產分割ノ効力發生ノ時期ニ

關スル規定ニシテ改訂法典財產取得編第四

百十七條ト同一ノ主義ニ從ヒ相續開始ノ時

ニ遡リテ分割ノ効力ヲ生ゼシムルモノトス

法典調査會

蓋シ共有ノ通則ヲ定ムルニ當リテハ本案ハ

既ニ創定主義ニ依リテ分割ノ効力ヲ既往ニ

遡ラシメサリシト雖モ遺產ノ分割ニ付テハ

寧ニ認定主義ニ依リテ其効力ヲ既往ニ遡ラ

シムルノ至當ナルコトハ既ニ共有ニ關スル

一般ノ説明ヲ爲スニ當リテ之ヲ畧述セリ要

スルニ認定主義ニ依リテ分割ノ効力ヲ定ム
ルコトハ共同相続人ノ保護ニ厚クシテ債権
者其他第三者ノ保護ニ薄シト雖モ既に本條
ノ如ク遺產相続ニ付テ分割主義ヲ採用シタ
ル以上人方割ノ効力モ亦相続開始ノ時ヨリ
發生スルモノト爲ス可シテ至當ト認メザル

法典調査會

ベカラザルノミナラズ共同相続ノ場合ニ於
テハ共有者ハ互ニ親族關係ニ立ツモノナシ
ハ其間ニ紛争ヲ生スルコト勿カラシメント
スルニハ認定主義ニ依リテ分割ノ効力ヲ定
ムルヲ以テ其當ヲ得タルモノトス之レ本條
ハ改訂法典ト同一ノ主義ニ從ヒ本條ノ規定

ヲ教ケタル所以ナリ

第一千十八條

(理由)

本條ハ既成法典財産取得編第四十

八條ト同一ノ趣旨ニ基キ遺產分割ノ場合ニ

於ケル其同相續人相互ノ擔保義務ヲ規定セ

リ只既成法典ハ本案ノ如ク分割ノ効力ヲ既

法典調査會

往ニ溯ラレリルニ拘ハラズ廢テ分割前ノ存

因ニ基ク分割前ノ妨礙及ビ追奪ニ付キ互ニ

擔保ノ責ニ任セシムルヲ以テ右ノ原因力相

續開始後ノモノニ係ルトキト雖モ擔保ノ責

任ヲ生セシムルコトト爲リ聊カ前後撞着ス

ル所アルニ因リ本案ハ相續開始前ヨリ存ス

ル事由ニ付テ擔保ノ表ニ任セシムルモノト
シ且其有ニ関スル第百六十一條ノ例ニ倣
フテ各其同相縁分ニ應テテ賣主ト同テ擔
保ノ表ニ任スベキ旨ヲ明カニセリ

第百十九條

(理由) 本條第一項ハ改訂法典財産取得編第

法典調査會

四百十九條ノ字句ヲ修正シテ其意義ヲ明確
ナラシメ保セテ擔保ノ表任ム各共同相縁人
ノ相縁分ニ應ズベキ旨ヲ明カニセリ蓋シ分
割ハ義務メテ公平ナラシコトヲ期スルニ拘ハ
ラズ債權ヲ割當テラシムル者ハ債權者ノ無
資力ニ因リテ債權ノ實益ヲ收ムルコト能ハ

又從テ分割ノ不公平ヲ生スルコトアルヲ以
テ他ノ共同相續人ヲ以テ債務者ノ資力ヲ担
保セシムルノ至當ナルコトハ更ニ辯明ヲ要
セス而シテ本條第一項ノ規定ハ既成法典ニ
存セザル所ナリト雖モ若シ此規定ナキトキ
ハ第一項ノ通則ニ從ヒ分割ノ當時ニ於ケル

法典調査會

債務者ノ資力ヲ擔保スルニ止マルヲ以テ辦
濟期日^ニ於テ債務者ノ無資力ト爲ルニ他ノ共
同相續人ノ資力ヲ任セザル結果ヲ生シ
分割ニ因リテ債權ヲ割當テラシムル相續人
ノ利益ヲ保護セシムル立法ノ本旨ヲ全フ
スルコト能ハザンベシ故ニ本條ハ既ニ債權

ノ慶主ノ擔保義務ニ関スル規定ニシタル第五
百六十九條第三項ノ例ニ倣ヒ特ニ本條第二
項ノ規定ヲ掲ケタリ

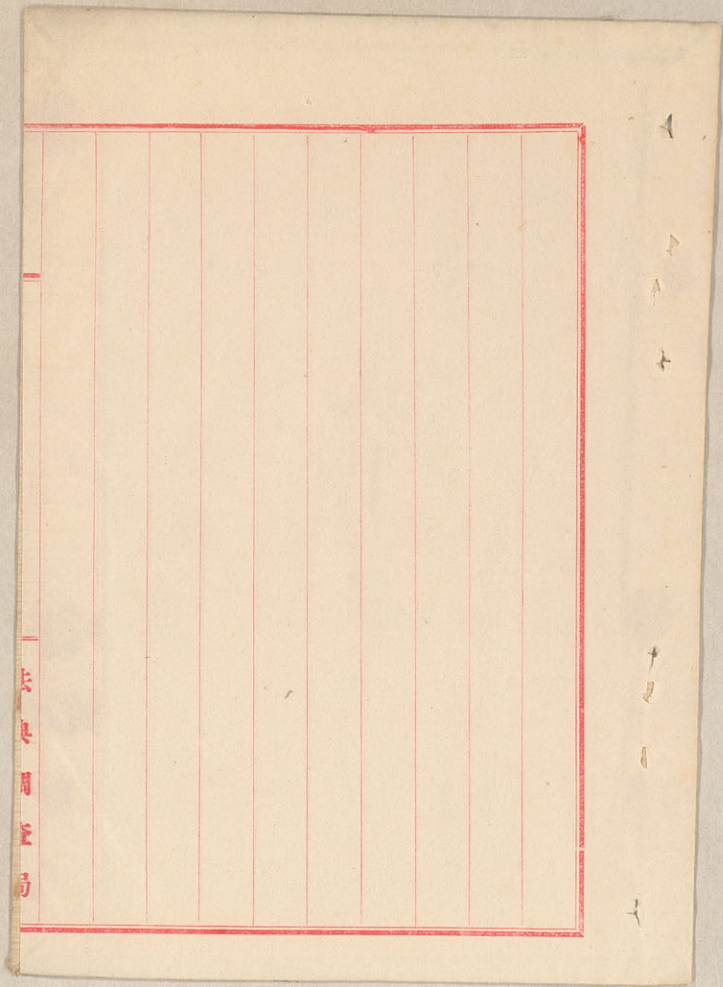
(理由) 本條ハ共同相続人ノ擔保義務ニ関ス
ル前二條ノ規定ノ結果ニシテ立法ノ本旨ハ
分割ノ務メテ公平ナラセコトヲ期スルニ外

法典調査會

ナラス而シテ其規定スル所ノ取次ニ本條力連
帶債務者中ニ償還ヲ爲ス資力ナキ者ヲ生シ
タル場合ニ對シテ規定スル所ト散テ異ナ
ル所ナキヲ以テ別ニ之ヲ説明スル必要ナシ
第百二十一條

(理由) 共同相続人ノ擔保義務ニ関スル前三條

條ノ規定ハ分割ノ公平ナランコトヲ欲シテ
之ヲ設ケタレシニ返キサレバ固ヨリ余念的ノ
性質ヲ有スルモノニ非ス殊ニ被相續人ハ各
共同相續人ノ相續分ヲ隨意ニ指定スルコト
ヲ得んモノナレハ其相互ノ擔保ノ責任ノ如
キ隨意ニ之ヲ指定シテ適宜ノ分割ヲ為スコ
トヲ得サレバカウズ是レ即チ本條ニ於テ被
相續人カ遺言ヲ以テ前三條ノ規定ニ異リ
ハ意思表手ヲ為スコトヲ得ベキ旨ヲ明カニ
スル所以ナリ



六
月
冊
五
局